ふるさとの昔話

田子浦 新浜の備前さん

◁備前さん

田子浦の新浜地区に「備前さん」と呼ばれるお堂があります。ここには昔、備前の国から幕府の御用米を積んで来て転ぷくした船の乗組員を祭った石塔が納められています。

今回は、この「備前さん」にまつわる話を、新浜の大竹徳一さん(68歳)に語ってもらいました。

夢枕に現れた石塔

昔、備前の国（現在の岡山県の一部）から、幕府の御用米を積んで来た船が、航路を間違えて駿河湾に入ってしまった。そこで仕方なく田子浦湊へ入ろうとしたが、富士川へ入ってしまった。富士川は天下の急流船はたちまちひっくり返り、船はもちろん20人近い乗組員はほとんど亡くなってしまった。死体は、大部分が新浜にあがり、哀れに思った新浜の人たちは、石塔を建て、祭ってやったそうな。

ところが、長い年月の間、たびたびの天災によって石塔は埋もれてしまい、人々にもすっかり忘れられてしまった。

それが、今から60余年前、新浜の大竹よねさんという信心深い老婆の夢枕に「石塔を掘り出して祭ってくれ」とお告げがあった。すぐに告げられた場所を掘ってみると、本当に石塔が出てきた。村の人たちは、さっそくお堂を建て、今でも毎月4日をもって供養している。

「備前さん」は、願い事がかなえられると定評があり、建立当時は参拝者が絶えなかったのを覚えている。

「お堂ができたときまんじゅうをもらったよ」

地名の由来

比　奈

旧吉永村の西部地区を比奈と呼んでいる。比奈は鄙あるいは雛に通じ、まことに優しい響きをもっている地名である。

一説では、比奈とは姫名ということばが転化したものだという。それは、中比奈地区の竹やぶに丸い石の塚があり、昔からそこがかぐや姫の伝説のふるさとであると伝えられているからであろうか。

富士のあけぼの ③

万葉集と富士山信仰

△田子の浦港西岸の碑

富士山は、その美しさ、気高い姿から多くの人々に歌や詩としてうたわれてきました。

奈良時代(710～794)、万葉の歌人山部の赤人が「田子の浦ゆ―」とうたったのは、あまりにも有名です。万葉集には、「富士山」「田児ノ浦」「潤井川」など駿河に関連した歌は多く、35首にのぼっています。

また、大きな山や木や石などに神が宿ると信じた古代の人々の心を強くとらえたのも富士山でした。

富士山が噴火を続けているのは浅間の大神のしわざであるから、大神の御心を静めようとよく富士山の見えるところに浅間神社が創立されました。浅間神社の多くが湧水地に祭られていますが、これは水の徳をもった神(木花咲耶姫)を祭って富士山の噴火を静めようとしたものです。

こちら編集室

ただいま編集室では順番に病人が出て、てんやわんや。「何といっても健康が一番だなァ」と実感しています。夏は体調を狂わせがちですが、皆さんもどうぞ気をつけて…。

発　行・富士市役所　富士市永田町1丁目100番地☎51－0123
編　集・総務部広報広聴課
人　口　215,777人　男　107,227人　女　108,550人
世帯数　61,206世帯
(7月1日現在)